

3章 港南区の将来像

(1) 港南区の将来像

“みんなで作る ふるさと港南“

- ・ 移り住む時代から定住する時代へ ずっとすみつづけられるまちづくり（住環境・空間づくり）
- ・ みんなでつなげる そだてるまちづくり（過去・現在・未来を繋ぐ地域意識の醸成）
- ・ 愛着と親しみをもてる私たちのふるさとづくり
- ・ みんなで作る みんながげんきなまちづくり（区民活動・地域コミュニティの充実、地域の活性化）
- ・ みんなが安心して暮らせるまちづくり（被害を出さない地域・社会の実現）

1) 拠点及び市街地の空間～拠点を中心に生活圏を形成するまち・ゆとりのあるまち～

- ・ 鉄道駅周辺を5つの生活拠点※とし、拠点相互の連携や住宅市街地の特性を踏まえた生活圏が形成され、生活圏ごとに商業や公共サービス機能など、区民の日常生活に必要な機能を備えたまちを目指します。
 - ・ 5つの拠点は機能を強化するとともに、相互が役割を分担し、機能を補い合うことにより、それぞれの個性が発揮できる拠点づくりを目指します。
 - ・ 市街化の進行が沈静化し、区民の定住化が進む中で、区民にとって暮らしやすい環境づくりを進めるため、地域の特性を活かした市街地や公共施設などの都市施設を整備・充実させるとともに、公園や緑地などの緑の創出によりゆとりのある空間をつくることで、生活環境の質の向上を目指します。
 - ・ 多くの人々が集い、交流する駅周辺及び道路や公共施設などの公共空間のバリアフリー化や防犯・防災対策を進めることにより、高齢者や体の不自由な方など全ての人々が、安全に安心して生活できるまちづくりを目指します。
 - ・ 区内外や、拠点間を中心とした生活圏の間を行き来する人々の移動と交流を支えるため、交通ネットワークの充実を目指します。
- ※ 上大岡駅については、2路線が乗り入れています。近接していることから1つの拠点として扱うこととします。

2) 地域意識の醸成～歴史と文化が共存するまちづくり～

- ・ 港南区の歴史的・文化的背景を大切に、歴史や文化を次の世代に語り継ぐとともに、新たな文化を皆で育むまちづくりを目指します。
- ・ 世代を超えた様々な人々の交流や情報交流機能の充実などにより、地域交流の活性化を目指します。
- ・ 地域資源を徒歩や自転車空間で結ぶことにより、区民が地域への愛着や親しみを感じることが出来るまちづくりを目指します。

3) 自然・地形・まちなみ～港南区の自然や地形を大切にしまち～

- ・ 区の中心部を大きく南北に走る尾根線とそこを境に東西を流れる2つの水系で構成される起伏のある地形を港南区の特徴として、まちなみや眺望を活用したまちづくりを目指します。
- ・ まちに潤いを与えてくれる、大岡川や平戸永谷川などの河川や、かつての自然豊かな丘陵地の名残を残す久良岐公園や日野公園墓地、区民の協力による住宅地の中の貴重な里山の風景を残す下永谷市民の森などを貴重な自然的資源として保全し、まちなかの区民の憩いの場として、保全・活用したまちづくりを目指します。
- ・ 地球温暖化防止や循環型社会の推進など、地球環境に配慮した低炭素さらには脱炭素型まちづくりを目指します。

4) 地域コミュニティ～各世代が元気に過ごせるまち～

- ・ 区民一人ひとりが、まちづくりの担い手として、身のまわりの緑化や地域にある公園・水辺の管理・活用に参画するなど、自分たちのまちを自分たちで育てることにより、みんながまちに愛着を持ち、港南区をふるさとと感じられるまちづくりを目指します。
- ・ 地域交流の活性化により、緊急時や災害時だけではなく、日常生活の中でも地域みんながお互いに支えあい、みんなが元気で過ごせるまちづくりを目指します。
- ・ 公共施設や空き施設を利用した交流の場から、多様な区民活動の輪が広がるまちづくりを目指します。

5) 防災・減災～災害時に被害を出さないまち～

- ・ 日頃から区民一人ひとりが災害時に自分の命を守る自助意識・行動の強化、向上を目指します。
- ・ 災害時に適切な行動を取るため、日頃からの地域住民のつながり、見守りなど地域コミュニティの強化を目指します。
- ・ 災害に強い市街地整備や、被害を最小化する減災都市づくりのためにライフラインやインフラ施設等の防災性強化を目指します。

(2) 港南区の将来都市構造

○港南区の将来像を実現するための基礎となる将来都市構造を、次の構成要素により形成します。

- ・ 駅周辺を中心とした「拠点」及び「まちづくりの圏域（エリア）」
- ・ 鉄道や幹線道路を中心とした「交通ネットワーク」
- ・ 主な河川や緑地を中心とした「緑の拠点」及び「水と緑のネットワーク」

1) 拠点及びまちづくりの圏域（エリア）

①主要な生活拠点（上大岡駅周辺）

○横浜市における主要な生活拠点に位置付けられている上大岡駅周辺には、商業・業務・文化機能など、区の中心部にふさわしい都市機能の集積を進めます。

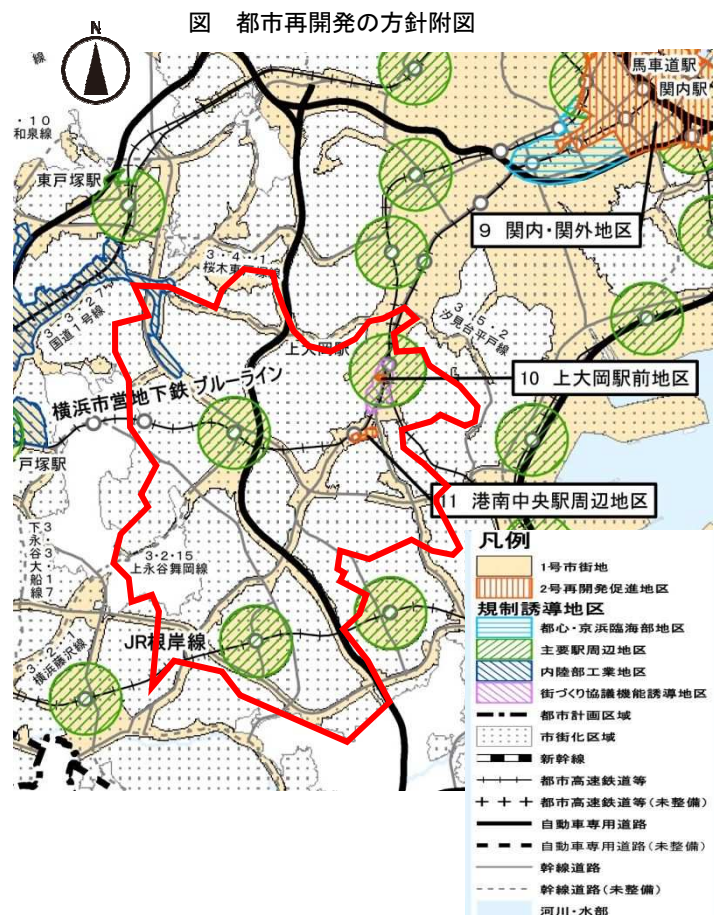
○また、横浜市内における広域的な拠点性のみならず、地域生活の拠点性の両面を持っているため、日常生活に必要な機能の集積も併せて進めます。

②生活拠点（港南中央、港南台、上永谷、下永谷各駅周辺）

○駅勢圏の大きい港南台、上永谷駅及び駅勢圏の小さい下永谷各駅周辺は、周辺地域の日常生活や区民同士の交流の場に関する生活拠点として位置付け、拠点としての機能を相互に補い合いながら、日常生活に必要な商業・業務・文化・公共サービス機能の集積を進めます。

○また、港南中央駅周辺には、総合庁舎をはじめとした公共サービス機能が集積していることから、上大岡駅や他の生活拠点との連携・分担により区の行政の中心としてふさわしい公共サービス機能の強化・集積を進めます。

○なお、港南中央駅周辺は都市再開発の方針における2号再開発促進地区に位置付けられていることから、拠点にふさわしい土地利用として、オープンスペースの確保、公共公益施設等を配置し、市民が憩える市街地の形成を図ります。



出典：横浜国際港都建設計画都市再開発の方針附图

2) 交通ネットワーク

①道路

○都市間や区内の各拠点及び各地域間の移動の円滑化を図るため、区内を南北方向に縦断する自動車専用道路である国道16号バイパス線（横浜横須賀道路）や、環状2号線、環状3号線、横浜鎌倉線（鎌倉街道）、横浜藤沢線、横浜逗子線（笹下釜利谷道路）、汐見台平戸線などの幹線道路を中心とした道路ネットワークの形成を進めます。

②鉄道・バス

○京浜急行電鉄本線、JR根岸線、横浜市営地下鉄ブルーラインは、区民の活動を支える重要な交通手段として位置付けるとともに、都市拠点としての駅の利便性・安全性の向上を鉄道事業者の協力のもと進めます。

○横浜市内の主要な生活拠点を結ぶことで、交通利便性の向上を図る横浜環状鉄道について整備効果や事業性を高める方策等の検討を進めます。

○区民の利便性の向上や地域の多様なニーズにきめ細やかに対応するため、バス路線の充実を事業者の協力のもと推進します。

3) 緑の拠点及び水と緑のネットワーク

①緑の拠点

○横浜市内の緑の10大拠点と共に、区内の大規模緑地を緑の拠点として位置付け、区民と行政の協働により、区民が自然の中で潤いと安らぎを感じることができる空間として保全・活用を進めます。

<緑の拠点>：久良岐公園、日野公園墓地・日野中央公園、港南台中央公園、下永谷市民の森

②水及び緑のネットワーク

○大岡川、日野川、平戸永谷川、馬洗川などの河川等とその周辺を、水のネットワークとして位置付け、区民と行政の協働により、河川周辺環境を保全するとともに、河川を活用して区民が憩える親水空間のネットワークの形成に努めます。

○区内に残る良好な緑を結ぶ主要な道路を緑のネットワークとして位置付け、区民と行政の協働のもと、安全を確保しつつ今ある緑の活用によりネットワークの形成に努めます。

○区内の10大拠点及び緑の拠点や野庭地域の一団の農地及び区全域的に点在する農地、区界周辺にある緑地を地域の資源として活用するため、区民と行政の協働により、緑の拠点間や区民の活動の起点となる駅と緑の拠点をつなぐ緑のネットワークの形成に努めます。

<水のネットワーク>：大岡川（笹下川）、日野川、平戸永谷川、馬洗川など

<緑のネットワーク>：環状2号線、環状3号線、横浜鎌倉線（鎌倉街道）、横浜藤沢線、上永谷線、横浜逗子線（笹下釜利谷道路）

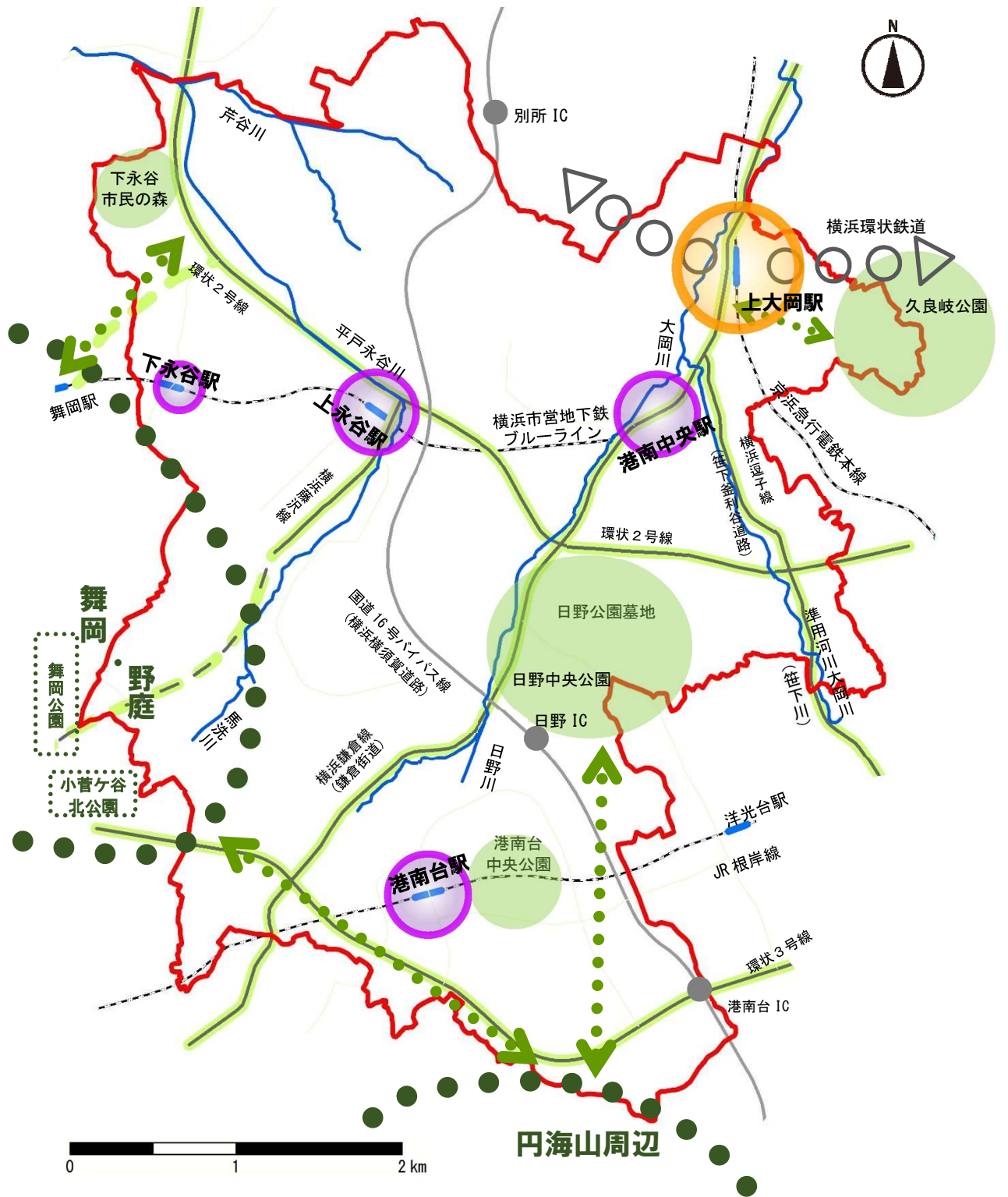
③区界周辺にある水と緑

○隣接区にまたがる久良岐公園や舞岡公園などの大規模公園・下永谷市民の森などの緑地や大岡川などの河川は、港南区民だけではなく、隣接区民にも重要な資源であるため、隣接区との連携により保全・活用に努めます。

<区界周辺にある緑>：円海山、久良岐公園、舞岡公園、舞岡ふるさとの森、小菅ヶ谷北公園、下永谷市民の森

<区界周辺にある水辺>：大岡川（笹下川）、平戸永谷川

図 将来都市構造図



<拠点>

- 主要な生活拠点
- 生活拠点
- 区界

<交通ネットワーク>

- 自動車専用道路：整備済み
- 3環状10放射道路：整備済み
- 3環状10放射道路：整備予定
- 鉄道及び駅
- 鉄道：構想

<緑の拠点及び水と緑のネットワーク>

- 緑の10大拠点
- 緑の拠点
- 区界周辺にある緑
- 水のネットワーク
- 緑のネットワーク(主要道路)
- 緑のネットワーク(拠点間や鉄道駅と拠点を結ぶ)

出典：横浜市 都市計画基礎調査(2013(平成25)年)データを加工